

平成30事業年度経営目標の達成状況の評価
(目標項目ごとの評価)

1. 基本目標

○ 事業運営の根幹となる開催日数288日(36開催)の競馬の着実な実施

- ① 競馬の着実な実施は事業運営の根幹であり、JRAは、お客様の安全確保の徹底や競馬の公正確保の徹底、防疫面での強固な取組み、競走馬の事故防止対策の推進、各種システムの安定的運用等を通じて、288日の競馬を遂行する。
- ② より多くのお客様が参加できるよう288日の競馬開催日を設定したうえで、自然災害等により当初計画での実施が困難な場合においても、関係各所との調整を速やかに行い、代替競馬・続行競馬の実施について判断する。

平成30事業年度は、当初計画した開催日程に沿って、開催日数288日(36開催)の競馬が着実かつ円滑に実施された。

なお、積雪及び台風の影響により計2日間の開催が中止となったが、当該開催日の代替競馬を実施した。

これは、お客様の安全確保及び競馬の公正確保の徹底、競走馬の保健衛生及び防疫面での強固な取組み、各種システムの安定的な運用、地域社会との協調等によって達成することができたものと評価する。

今後とも、将来にわたる中央競馬の発展のため、競馬の着実な実施に向けた各種業務を的確かつ積極的に遂行されたい。

○ 魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大—対前年比 100%超

- ① 魅力ある競走の提供等により開催競馬場の入場人員の増加を図る。
- ② 快適な観戦環境の提供等によりパークウインズ及びウインズの入場人員の増加を図るとともに、販売ネットワークの拡充等により J-P L A C E の入場人員の増加を図る。
- ③ 電話・インターネット投票の利便性向上等により会員の増加を図る。
- ④ お客様総数の拡大による発売金の増加を図る。

平成30事業年度は、お客様総数が前年を上回るなど、目標を達成した。

これは、目標達成に向けた様々な取組みが相乗的な効果を生んでいるものと評価する。

J R A を取り巻く環境は、中長期的には少子高齢化や人口減少の進展、社会環境の変化や価値観の多様化による消費動向のめまぐるしい変化が懸念されるとともに、短期的にも消費税率の引き上げ後の景気動向等、決して楽観視はできない。これらの状況を踏まえ、今後とも、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の更なる魅力向上、新規顧客の獲得、競馬のイメージ向上による裾野拡大等を図るため、多方面にわたる取組みを推進されたい。

《参考》

お客様総数 1億8,006万6,617名（対前年比100.3%）

勝馬投票券発売金 2兆8,161億6,370万8,300円（対前年比101.7%）

2. 個別目標

(1) 魅力ある競走の提供

お客様に長期にわたって中央競馬を楽しんでいただくため、魅力ある競走を提供すべく、以下の項目に取り組む。

- ① G I 競走を頂点としたわかりやすい競走体系を構築すること。
- ② 質の高い出走馬による内容・頭数の充実した競走を提供すること。(平地重賞競走について、1 競走あたりの平均出走頭数が14頭以上。)
- ③ 中央競馬が世界のチャンピオンホースを決定する重要なステージとして位置付けられること。

平成30事業年度は、質の高い出走馬による内容・頭数の充実した競走の提供に努めた。また、平地重賞競走の1競走あたりの平均出走頭数は14.5頭と、目標値(14頭以上)を上回る実績となった。

ダート競馬の祭典として、例年、地方競馬で実施しているJBC競走については、ダートグレード競走の魅力をより一層お客様に知っていただく契機とするため、中央競馬の競走として第5回京都競馬第2日(11月3日)において3競走を実施し、発売金合計は約157億円であった。

外国の競走に延べ42頭(うち1頭は競走除外)のJRA所属馬が遠征し、うち3頭が優勝する活躍を見せた。また、JRAの競走への外国調教馬の出走は、昨年と同数の7頭であった。

こうしたことから、魅力ある競走の提供については、相応の成果を挙げることができたものと評価する。引き続き、番組の改善や競走馬の資質向上等、多方面にわたる取組みを着実に実行されたい。

一方で、昨今、世界的な活躍をするアスリートを輩出した競技は、広く一般の認知度の向上につながっていることに鑑みると、海外での日本馬の活躍や国内の国際競走への一流の外国調教馬の出走は、競馬のブランドイメージの向上において有益であり、幅広い視点からの積極的かつ効果的な取組みを期待する。

《参考》

- 競馬の実施状況
 - 開催回数 36回
 - 開催日数 288日
 - 競走回数 3,454競走（前年実績3,455競走）
 - 出走延頭数 48,433頭（前年実績49,148頭）
- 平地重賞競走の平均出走頭数 14.5頭（平成29年/14.9頭）
- ダート競馬の祭典として、例年、地方競馬で実施しているJBC競走について、ダートグレード競走の魅力をより一層お客様に知っていただく契機とするため、第5回京都競馬第2日（11月3日）において、1日3競走を中央競馬の競走として実施し、発売金の合計157億円
- 競走における事故（3ヶ月以上の休養馬：骨折のみ）頭数は764頭（平成29年/803頭）であり、出走頭数に占める比率は1.57%（平成29年/1.63%）
- 発走に係る処分件数は309件0.64%（平成29年/358件）、発走時刻遅延件数は77件2.2%（平成29年/81件）
- JRAの競走への外国調教馬の出走頭数は延べ7頭（平成29年/7頭）
- 外国の競走へのJRA所属馬の遠征頭数は延べ42頭（うち1頭は競走除外）（平成29年/29頭）。ジェニアルがメシドール賞を優勝するなど計3勝

(2) 競馬の公正確保の徹底

競馬の施行にあたり、公正確保及び安全確保に万全の態勢を整える。

- ① 馬主・競走馬等の登録、調教師・騎手の免許及びその取消しについて、競馬関係法令に基づき、厳正に実施する。また、競馬の公正を確保するため、必要な制裁や処分を厳正に実施する。
- ② 競馬に関する不正事案を未然に防止するため、常に保安体制の整備や注意喚起等を実施する。

平成30事業年度においても、登録・免許業務の厳正な実施、不正事案の未然防止の徹底、違法行為の防止等、競馬の公正確保に向け継続した取組みが行われたものと評価する。

また、調教師による道路交通法違反などの事案が発生したが、適切な処分と再発防止に向けた取組みを実施した。

なお、平成30年においては、地方競馬において禁止薬物陽性事案等が発生した。JRAで発生した事案ではないものの、世間の「競馬」に対するイメージダウンにつながりかねないものと危惧する。JRAにおいても、こういった重大な事案が発生すると、いままで公正確保に努め、積み上げてきた社会的信用を失うことになると考えられる。

こうした認識に基づき、今後とも、お客様に信頼される競馬の提供を目指して、公正確保に万全の態勢で取り組むとともに、関係者の教育を一層充実し、安全かつ円滑な競馬の実施に努められたい。

《参考》

- 競馬開催における制裁
 - 騎手 戒告・過怠金 805件（平成29年/862件）
騎乗停止 35件（平成29年/46件）
 - 調教師 戒告・過怠金 68件（平成29年/63件）
- 登録及び免許の実施状況（平成30年末）
 - 馬主登録 2,473名（平成29年末/2,400名）
※内、新規登録 176名（平成29年/135名）

- 競走馬登録 8,597 頭 (平成 29 年末/8,428 頭)
- 服色登録 1,935 名 (平成 29 年末/1,904 名)
- 調教師免許 192 名 (平成 29 年末/200 名)
- 騎手免許 133 名 (平成 29 年末/134 名)
- 調教師による道路交通法違反事案 (酒気帯び運転) については調教停止 6 ヶ月の処分を、調教助手による偽計業務妨害事案については競馬関与停止 5 年の処分をそれぞれ実施
- 規制薬物陽性事案については調教師に過怠金 30 万円の処分を実施

(3) 競馬への参加促進

競馬の魅力を訴求するとともに、競馬場等における各種施策の実施により、競馬への参加促進を図る。

- ① 各種メディアを通じたプロモーションを展開するとともに、G I 競走をはじめ、J B C 競走や12月28日の年末開催、海外競馬の発売等、様々な機会を通じてプロモーションを実施し、競馬の魅力を訴求する。
- ② 安定的な競馬中継の実施やパブリシティ活動の充実により、競馬に対する興味を喚起する。
- ③ 競馬場等において、多様なお客様層に応じたアプローチを行うなど、幅広いお客様の参加を促し、お客様の裾野拡大に取り組む。

平成30事業年度は、競馬未経験層への訴求をより強めた年間プロモーション「HOT HOLIDAYS!」を継続展開し、競馬への参加促進に資する広告展開やG I 競走のプロモーションの強化等を実施した。さらには、全競馬場において同プロモーションと連動したイベントや装飾を統一感をもって実施することで、スケールメリットを活かすとともに、プロモーションキャラクター等の活用による未経験層の競馬場来場への誘引を図った。

きめ細やかなパブリシティ活動の実施により、障害競走で人気を博したオジュウチョウサンの有馬記念出走等、競馬に関する様々な話題が一般紙や各種放送メディアで取り上げられるなど、広く世間に「競馬」をアピールすることができた。

競馬場やウインズ等の活性化は、継続的に取り組んでいくことが重要であり、従来からの「UMA JO スポット」の運営や「ウインズ・デー」の実施等、様々な取組みを実施した。

これらの様々な取組みが、競馬に対する興味喚起や魅力向上につながり、お客様総数が前年を上回るなど、競馬への参加促進については、相応の成果を挙げることができたものと評価する。

今後とも、多様なお客様層に応じた広告活動やプロモーション、「UMA JO スポット」等のお客様の満足度向上に資する各種施策

等、様々な参加促進のための取組みを積極的かつ効果的に実施されることを期待する。

《参考》

- お客様総数の内訳
 - 開催競馬場 626万6,912名（対前年比101.5%）
 - 場外発売施設 4,963万6,917名（対前年比94.7%）
 - 【内訳】パークウインズ 595万5,993名
 - ウインズ 3,886万1,324名
 - J-PLACE 481万9,600名
 - 電話・インターネット投票 1億2,227万1,618名（対前年比102.6%）
- 開催競馬場における女性入場人員 108万8,007名（対前年比105.0%）
 - ※ 入場人員に占める割合 17.4%（平成29年/16.8%）
- プロモーションの展開
 - 若年層を中心とした競馬未経験層への訴求をより強めた年間プロモーション「HOT HOLIDAYS！」を引き続き展開。テレビCMはシーズン編2編（春及び秋）とGI告知編14編を制作・放映
- 競馬場やウインズ等の活性化
 - 全競馬場の競馬開催日において年間プロモーション「HOT HOLIDAYS！」と連動したプロモーションを展開。イベント・装飾等について統一感を持ったものによりスケールメリットを生かしたものと
する他、プロモーションキャラクターの来場等により華やかさを醸成するとともに、競馬未経験者への競馬場来場を誘引
 - 全競馬場・全競馬開催日において「UMAJOスポット」を運営。外部施策として人気ファッション誌とのコラボレーションなども実施
 - 8月18日（土）・19日（日）を「ウインズ・デー」として、全国のウインズ・エクセル・パークウインズにおいて、お客様への感謝イベントを実施
- パブリシティ活動：企業や組織が行うPR活動において、報道機関にニュース素材を提供するなどの活動

(4) 販売促進

お客様により競馬を楽しんでいただくため、勝馬投票券をより購入しやすい環境の整備に取り組むとともに、各種販売促進により、推理の楽しみと的中体験を通じた競馬の魅力も多くの方にお届けできるよう取り組む。

- ① キャッシュレス投票システムを導入するなど、競馬場やウインズ等における勝馬投票の利便性及びサービスの向上を図る。
- ② 払戻金施策をはじめ、各種販売促進施策を実施する。
- ③ 電話・インターネット投票会員の加入促進とフォローアップによる離脱防止に取り組む。

平成30事業年度は、専用ICカード「JRA-UMACA」を用いることによって「現金レス」「馬券レス」で、これまで以上に便利に勝馬投票を楽しんでいただけるキャッシュレス投票システム「UMACA投票」を一部事業所に導入した。また、QRコードを用いて「マークカードレス」での勝馬投票を可能とする「スマッピー投票」を一部事業所に導入した。

「JRAプレミアム」と「JRAプラス10」を引き続き実施するとともに、弾力的な払戻率の設定の更なる活用策として、12月28日(第5回中山競馬第9日及び第5回阪神競馬第9日)において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施し、お客様サービスの充実に取り組んだ。

販売ネットワークの拡充策においては、100か所目の現金発売施設となる「ライトウインズりんくうタウン」を小規模発売店舗として9月に開設するとともに、J-PLACEを新たに3か所開設した。

また、即PATにおいては、指定金融機関に「じぶん銀行」を追加し、合計9行で利用可能となるなど、引き続き、電話・インターネット投票会員の加入促進及び利便性の向上に取り組んだ。

これらのお客様へのサービスや利便性の向上に資する各種施策を積極的に展開した結果、お客様総数及び発売金が前年を上回り、販

売促進については、相応の成果を挙げることができたものと評価する。

今後とも、UMACA投票やスマッピー投票の導入事業所の拡大等、勝馬投票における利便性の向上に取り組むとともに、お客様のニーズや時代の変化に適合した様々な販売促進施策を積極的かつ効果的に実施されることを期待する。

《参考》

- キャッシュレス投票システム「UMACA投票」を、東京競馬場（9月）、福島競馬場（10月）、中京競馬場・阪神競馬場・ウインズ銀座・ウインズ難波・ウインズ神戸（11月）の計7事業所に導入（平成30年末現在JRA-UMACA登録会員数45,187名）
- 「スマッピー投票」を4月に東京競馬場に導入。平成30年末までにUMACA投票または8次現金端末機を導入済みの9事業所に導入
- 電話・インターネット投票の新規登録会員数
 - A-PAT会員 3,725名（総数 1,516,649名）
 - 即PAT会員 465,111名（総数 2,618,872名）
 - JRAダイレクト会員 41,264名（総数 63,553名）
- 電話・インターネット投票会員数（平成30年12月28日現在）
4,214,968名（対前年比104.6%）
- JRAプレミアム
 - 競走数 707競走（平成29年/749競走）
 - 上乗せ総額 3,078,455,120円（平成29年/3,125,295,820円）
- JRAプラス10
 - 件数 687件（平成29年/658件）
 - 上乗せ総額 3,371,090,300円（平成29年/3,016,494,960円）
- 弾力的な払戻率の設定の更なる活用策として、12月28日において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施し、その結果、当日の払戻金は約17億円増加した。

(5) ホスピタリティの向上

競馬場やウインズにご来場いただいたお客様により快適に競馬を楽しんでいただくため、ホスピタリティの向上に努める。

- ① 接客マナーの向上を図るとともに、案内体制を充実する。
- ② 競馬場やウインズ等において、観戦環境の向上を図る。

JRAでは平成30事業年度からホスピタリティの向上に取り組んでおり、職員だけでなく、全国の競馬場やウインズ等で働く警備員や清掃員等を含む全てのスタッフに対する大規模な接客研修を実施し、全員の意識向上を図った。併せて、お客様関連施設の改修や分煙化の推進、さらには、外国人来場者向けサービスの充実等、観戦環境の向上のための施策を積極的に実施した。

ホスピタリティの向上については、今後とも継続的に取り組むことが重要であり、競馬場やウインズ等にご来場いただいたお客様に、より快適に競馬を楽しんでいただくため、多様なお客様層に応じた接客対応の充実等の取組みを積極的に実施することを期待する。

(6) 馬事振興

我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、馬事文化の発展や乗馬の普及など、馬事の振興に努める。

- ① 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において馬術競技会場となる J R A 馬事公苑の整備工事を進める。
- ② 各種の事業を通じ、乗馬の普及や馬術の振興、馬事文化の発展への寄与に取り組み、馬に対する理解を促進する。また、引退競走馬の利活用促進及び福祉の充実を図るため、乗用馬への転用等セカンドキャリアの促進を支援する。

平成 3 0 事業年度においても、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場となる J R A 馬事公苑の整備工事を円滑に進めた。

また、(公財)東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京 2020 オフィシャルコントリビューター契約」を締結するなど、当該馬術競技の円滑な運営に資する取組みを実施した。

さらに、乗馬の普及、引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援、馬術の振興、「馬」や「競馬」に対する理解醸成に関する取組み、馬事文化の発展のための諸活動を着実に実施した。

具体的には、全国の事業所における馬事イベントの実施、障害者乗馬等を実施する各団体の活動への支援、馬への理解を深められるような諸施策の実施等、馬の特性を活かした様々な活動に取り組んだ。

こうしたことから、馬事振興については、相応の成果を挙げることができたものと評価する。今後とも、J R A 馬事公苑の整備工事を着実に実施するなど、様々な施策に取り組まれない。

《参考》

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場となる J R A 馬事公苑の全面的な整備工事を進めるとともに、(公財)東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京 2020 オフィシャ

ルコントリビューター契約」を締結し、前述の整備工事に加え、会場整備に係る財政支援及び馬術競技の円滑な運営に協力

- 全国の事業所において「馬の親しむ日」等の馬事イベントを実施
- 障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援
- 幼少期から馬への理解を深め、生き物を通じた豊かな人間性の形成に寄与するよう、「小学校出張授業」を実施

(7) 社会貢献活動とCSR

地域社会との調和をはじめとした社会貢献活動や環境対策などのCSRに積極的に取り組み、社会に愛され、信頼される中央競馬を目指す。

また、国際協調・国際協力を通じた競馬発展に取り組む。

- ① 社会貢献活動を推進する。
 - i) 地域社会との連携・協調に取り組む。
 - ii) 交付金の交付により、畜産振興を図る。
- ② CSRへの取組みを推進する。
 - i) 事業運営に伴う排出物のリサイクルや温室効果ガスの排出抑制に取り組む。
 - ii) 情報セキュリティの確保やコンプライアンスの遵守、事業の適正性及び透明性の確保など、企業として求められる社会的責任を果たす。
- ③ ギャンブル障害について、研修等を通じて役職員が正しい知識に基づく認識を持つとともに、お客様へ注意喚起・知識の普及啓発などの対応を適切に行う。
- ④ アジア競馬連盟に主導的な立場で参画し、域内全体の競馬のより一層の発展に貢献するとともに、円滑な国際交流を進める基盤を整備する。

【社会貢献活動関連】

平成30事業年度においても、地域社会への貢献として、競馬場やウインズ等が所在する地方自治体に対する環境整備事業の実施、大規模災害発生時における体制の整備等、地域に根ざした様々な取組みにより、地元住民や自治体との協調関係を維持発展することができた。

また、特別振興資金を活用して、馬伝染性疾病防疫推進対策事業等の畜産振興事業を実施した。

【CSR関連】

平成30事業年度においても、コンプライアンス体制の確立、情報公開に対する対応、契約の一層の競争性や公正性向上の推進、契約手続きにおける透明性の確保等の法令順守に関しては、着実に実施されており、JRAの事業運営に対する信頼性に影響を及ぼすような事案はなかった。

また、排出物のリサイクル率や温室効果ガス(CO₂)の排出量に

関する目標の達成、バイオマス発電システムの導入に向けた整備工事等、環境への取組みも着実に実施した。

【ギャンブル障害関連】

お客様に安心してお楽しみいただける環境を整備し、末永く中央競馬をご愛顧いただけるよう、一元的な相談窓口「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」の開設やお客様及びそのご家族からの申請によるアクセス制限等のギャンブル障害への対応について適切に取り組んだ。

こうしたことから、社会貢献活動とCSRについては、相応の成果を挙げることができたものと評価する。

今後とも、JRAとしての社会的責任を十分に果たしていくため、事業運営に対するお客様及び社会からの信頼性の確保、環境への取組み及びギャンブル障害への適切な対応等を着実に実施されたい。また、近年、CSRとともに重要視されている「SDGs」をはじめとした持続的な社会の実現も意識した取組みについて検討されることを期待する。

《参考》

- 地域社会の貢献
 - 大規模災害発生時の対策として、競馬場・都市部ウインズ等において防災備蓄品を適切に配備・管理
 - 競馬場・ウインズ等が所在する合計38の地方自治体に対し、総額53.6億円の環境整備事業費を交付
- 畜産振興を図ることを目的として、特別振興事業の畜産振興事業を実施
- 「コンプライアンス行動指針」の役職員への周知徹底、研修の実施、内部監査等によるコンプライアンス体制の現況確認、点検、見直しを適宜実施
- 経営内容の公開、情報開示請求への対応を適正に実施
- 契約の適正化に向けた点検により、契約の一層の競争性や公正性の向上を推進
- 環境への取組み
 - 事業運営に伴う排出物のリサイクル率は、全体：93.0%(平成29年/93.5%)、

競馬開催に関する排出物：55.1%（平成29年/54.6%）

- 両トレーニング・センターの事業運営の安定化及び環境対応に資する目的で、使用済敷料の新たな処理法として「バイオマス発電システム」を導入
 - 栗東：平成28年1月着工
平成31年9月竣工予定
 - 美浦：平成30年9月着工
平成35年6月竣工予定
- 温室効果ガス（CO₂）の排出量は97,358t-CO₂/年であり対前年比99.9%
- 競馬学校、東京競馬場及び中山競馬場において太陽光発電システムを運用
- ギャンブル障害関連の平成30年対応実績
 - JRAインフォメーションデスクへの相談件数 188件
 - 公営競技カウンセリングセンターへの相談件数 242件
 - ※カウンセリングセンターは平成30年4月開設
 - ネット投票の利用停止件数
 - 本人申請 613件 家族申請 210件
 - 競馬場等への入場制限件数
 - 本人申請 10件 家族申請 0件
 - ※家族申請は平成30年10月導入
- CSR：(CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY) 企業の社会的責任
- SDGs：(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS) 持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択された。日本国内でも総理を本部長とするSDGs推進本部が設置されている。

(8) 施設及びコンピュータ・システムの整備

- ① お客様により快適で安全な観戦環境を提供するため、お客様関連施設の改善及び整備を行う。
- ② 質の高い競走に資するため、競走関連施設の改善及び整備を行う。
- ③ コンピュータ・システムについて、お客様への迅速、正確かつ安定的なサービスの提供を行うため、改善及び整備を行うとともに、効率的なシステム運用を図るため、全体最適化を進める。

平成30事業年度においても、お客様関連施設と競走関連施設に係る改善及び整備を着実に実施した。

また、コンピュータ・システムの更新及び全体最適化を推進するとともに、情報セキュリティに係る整備、監査、研修等を行い、競馬開催に影響を及ぼす問題が発生しなかったことを評価する。

引き続き、お客様の更なる快適性と利便性等の向上、質の高い充実した競走の提供に資する各関連施設の改善及び整備について計画的に取り組むとともに、コンピュータ・システムについては、信頼性及び安全性の確保が最も重要であり、競馬の着実な実施に悪影響を及ぼすような事案が起こらないよう、適宜システムの更新等を行い、万全の態勢を整えることを強く期待する。

《参考》

- お客様関連施設の改善及び整備
 - 中山競馬場スタンド等整備工事
- 競走関連施設の改善及び整備
 - 美浦トレーニング・センター厩舎改築工事
- 各システムの信頼性、安定性及び効率性の向上を図るために、適宜システム更新を行うとともに、円滑なデータ連携の実現等に向けて全体最適化を推進

(9) 効率的な業務運営

将来にわたる経費負担の抑制に継続的に取り組むとともに、資産の有効活用等に取り組み、経営基盤の強化を図る。

平成30事業年度においても、ウインズの効率的なフロア運用等による事業運営の効率化を図った。また、インターネット投票による地方競馬の受託発売や職員及び関係者に対する研修の実施等の経営資源の有効活用についても着実に実施した。こうしたことから、効率的な業務運営については、相応の成果を挙げることができたものと評価する。

今後とも様々な観点から事業運営の安定化と経営基盤の強化に取り組まれない。

《参考》

- ウインズの効率的なフロア運用について、混雑度等を元に検証を行い、8
ウインズでフロア等の縮減を実施
- インターネット投票による地方競馬の受託発売の成績
発売日数：238日 発売金：約884億円
※発売日数：244日 発売金：約786億円（平成29年）
- 対売上収益率（剰余金／売得金額）1.97% ※平成29年 2.15%